

〔視点2〕 内容や時間のまとまりを見通した単元（題材）のデザイン

1 主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

次の学びにつなげる「振り返り」

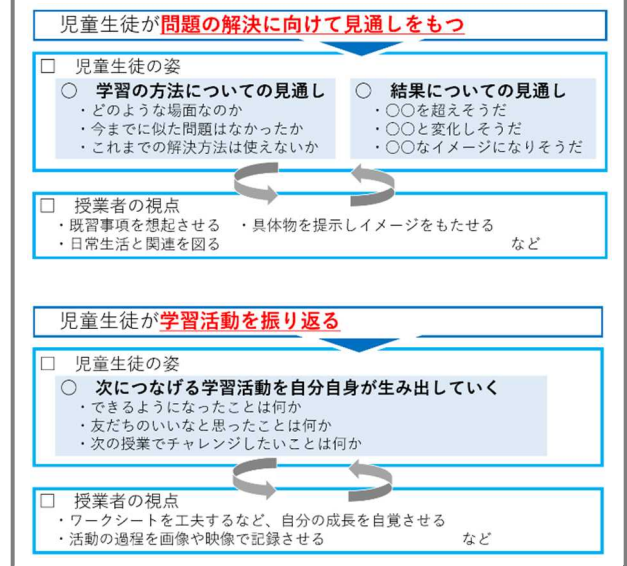
振り返りは、学習活動の意味を考えるなど、身に付いた資質・能力を自覚することに加え、児童自身が気づきや疑問などから新たな課題を生み出し、次の学びにつなげるなど、主体的に学習に取り組ませる上で大切な活動です。

そのため、単元（題材）全体を通して、児童が学習を自分の問題として捉え、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学習活動を児童自らが生み出していく場面を位置付けることが重要です。

【POINT】

- ・「主体的・対話的で深い学び」とは、学習指導要領に示された内容を、児童が「どのように学ぶか」について、具体的な姿として示したものです。
- ・児童の具体的な学びの姿を考えながら、単元（題材）のデザインを考えることが大切です。

「主体的な学び」の具体例



2 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。

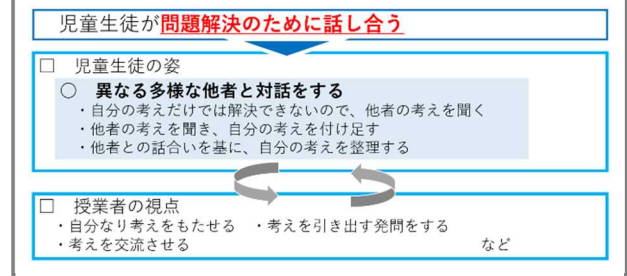
学びの質を高める「対話」

対話の向かう先は、単元（題材）で育成を目指す資質・能力であることを踏まえ、対話に先立ち、自分なりの考えをもたせるような場面を工夫することが大切です。

【POINT】

- ・授業の目標のもと、意図をもって話合いの場面を設定するとともに、どのように話合いを進めるかなど、児童に明確に伝えることが大切です。

「対話的な学び」の具体例



3 学びの深まりをつくりだすために児童が考える場面と教師が教える場面を組み立てる。

知識・技能をつなぐ「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程において、教科等の固有の学びが実現されるよう、児童がどのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかを踏まえ、単元（題材）をデザインすることが大切です。

【POINT】

- ・実際の指導場面における児童の学習の状況に応じ、指導計画の見直しを図る柔軟な姿勢をもつことが大切です。

「深い学び」の具体例

